



## 宗教的イメージを 読み解く。

なぜ、現代日本を代表するポップカルチャーにはキリスト教的な象徴が溢れているのか？『新世紀エヴァンゲリオン』や『千と千尋の神隠し』から『永遠の0』や村上春樹の『1Q84』にいたる24作品を徹底批評！日々学生たちにキリスト教を講じている著者が、自らの講義録をもとに、哲学・キリスト教学の視点から、そこに流れるメッセージ＝現代の日本人に最も近い福音の現在形を浮かび上がらせた問題作。

◆四六判・216頁・本体2000円



高橋優子著（たかはし氏は酪農学園大学准教授）

福音の文脈化に向けて

6月17日発売

# ポップカルチャーを哲学する

### 【本書で紹介された作品】

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| 『Smoking Gun 民間科捜研調査員<br>流田縁』 | 『新世紀エヴァンゲリオン』                           |
| 『魔法少女まどか☆マギカ』                 | 『千と千尋の神隠し』                              |
| 『1Q84』                        | 『風の谷のナウシカ』                              |
| 『風立ちぬ』                        | 『境界のRINNE (Circle of<br>Reincarnation)』 |
| 『S—最後の警官』                     | 『創聖のアクエリオン～虚空の天<br>翅～』                  |
| 『永遠の0』                        | 『ベルソナ3』                                 |
| 『進撃の巨人』                       | 『純潔のマリア』                                |
| 『聖☆おにいさん』                     | 『鋼の錬金術師』                                |
| 『とある魔術の禁書目録』                  | 『荒川アンダーザブリッジ』                           |
| 『七つの大罪』                       | 『ゴールデンカムイ』                              |
| 『DEATH NOTE』                  | 『聲の形』                                   |
| 『死神くん』                        | 『青の祓魔師』                                 |

# キリスト者の標識

井上良雄著

キリスト教講話集Ⅲ



戦争末期にキリスト者となり、戦後は東京神学大学で教鞭を執りつつバルト「和解論」全巻を訳出、また日本基督教団の社会委員長を歴任するなど、信徒として教会に仕えた井上。没後、書斎で発見された14冊の説教ノートから復元された説教・講演を全4巻に集成。第Ⅲ巻には40年代から60年代までの12編を収録。戦後の激動期を至純な信仰をもって生きた「証人としてのキリスト者」の真実な言葉。

【目次より】教会と文化／死について／バルトの人間論の構造／バルトにおける国家の問題／市民に訴える／バルトと私／キリスト者の標識／原水爆とキリスト教／受洗者祝辞／私はなぜキリスト教を信ずるか／バルト『和解論Ⅰ』を訳し終えて／世との連帯性——特に政治における

近刊 待ちつつ急ぎつつ

◆新書判・300頁・本体1700円  
キリスト教講話集Ⅳ  
〔7月下旬予定〕

既刊 大いなる招待

◆本体1700円  
キリスト教講話集Ⅰ

既刊 エデンからゴルゴタまで

◆本体1700円  
キリスト教講話集Ⅱ



## ●関連書

井上良雄著

# 神の国の証人ブルームハルト父子

待ちつつ急ぎつつ

ドイツの異色の牧師父子（父 1805-80、子 1842-1919）の生涯と信仰を辿る。父はその生き生きとした終末論的信仰の故に、また子は宗教社会主義への真剣な挺身の故に、カール・バルトの神学思想に決定的な影響を与え、今もなお信仰者の生き方・神学のあり方に鋭い問題を投げかけている。著者のライフワークたる渾身の力作評伝。◆四六判・本体4500円

テイモシー・ウエア著／松島雄一訳

## 正教会

東方キリスト教入門（仮題）

1963年の初版以来長く読み継がれてきた入門書の定番。2015年のペンギンブックス版第3版の待望の邦訳。

◆A5判・予価4000円

ローランド・ベイントン著／出村彰訳

## 宗教改革史

名著「16世紀の宗教改革」の全訳。宗教改革の原因・展開・帰結を深い史眼で平易に叙述。信教の自由や対国家観等、近代社会形成への影響にまで及ぶ。復刊への新解説を追加。

◆四六判・予価2600円

井上良雄著

## 待ちつつ急ぎつつ

キリスト教講話集IV

「キリスト者の標識」に続く第4集。1965年「高見順氏の死について」から96年「待ちつつ急ぎつつ」まで11編。

◆新書・予価1700円

フスト・ゴンサレス著／石田学訳

## キリスト教思想史Ⅱ

教会史家として名高い著者の主著。第2巻は古代末期から中世末期にいたる千年あまりの間に、キリスト教思想がいかなる変化を遂げていったかを、単なる思想内の運動としてではなく、社会的・経済的文脈との関連に注目しながら生き生きと叙述する。

◆A5判・予価5000円

●5月に出た本と雑誌

## ゴッホと〈聖なるもの〉

正田倫顕著

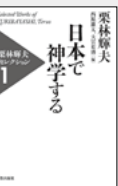


書簡と作品の徹底的分析を通して、ゴッホとキリスト教の関係、また彼の宗教性の内実がはらむ〈聖なるもの〉の秘密を明らかにした俊英の力作。

◆A5判・本体2700円

## 日本で神学する

栗林輝夫セレクシオン1 西原廉太・大宮有博編



日本の文脈に現場に根ざして神学を営んだ著者の論考を精選。解放神学者としての田中正造論・賀川豊彦論から、ポスト・フクシマの神学まで。

◆A5判・本体3600円

## 神の和の神学へ向けて

宮平望著 三位一体から三問一和の神論へ

すく書房版を新装復刊。

◆A5判・本体2400円

## 福音と世界

◆税込635円

6月号 特集 世界史の中で——宗教改革500年⑥

寄稿者：野々瀬浩司、クラウス・コシヨルケ、深井智朗、伊勢田奈緒、蝶野立彦、西川杉子／西川重則／高井ヘラー  
由紀、吉松純、内田樹、佐藤優、芦名定道、辻学、月本昭男、望月麻生ほか

●最近、月刊誌の新連載の準備も兼ねて、5月号「聖書とわたし」に執筆いただいたブレイディみかこさんが登壇するイベントに行く機会がありました。気鋭の書き手であるブレイディさんの周囲では、さまざまな出版社の編集者がお互いに親しげに話していて、その輪に入っていくのは正直すこし気後れしてしまいました。ですが、いざ飛び込んでみると驚いたことに、以前交流のあった大学時の先輩だったり共通の知人がいたり、私自身とすでにつながりのある人ばかり。うれしく、どこかほっとしたような気持ちになりました。かつて関心と同じくした者同士、今は居場所こそ違えど、やはり同じものに惹かれていたのです。

●おそらく、互いに養いあえるような関係を誰かとつくっていくためには、そのひとが追いかけているものにこちらも迫ってみる必要があるのでは。今月刊行の高橋優子著『ポップカルチャーを哲学する——福音の文脈化に向けて』は、そのための有力な手がかりとなってくれます。現代日本を代表するアニメ・マンガ作品などを哲学的に読み解く同書は、まるで別物にも

思えるポップカルチャーとキリスト教とが重なりあう地点を教えてください。アニメやマンガが好きの方だけではなく、ふだんそれらに接する機会がないという牧師・信徒の方にこそ、おすすめします。ひよつとすると、この本やその紹介作品をつうじて、思いもよらない相手との、人生の一ページいや数十ページにもおおよぶ出会いがあるかもしれません。(堀)

●NHK日曜美術館がブリュッゲルの《パベルの塔》を取り上げるといいうので楽しみにしていたのですが、人気劇画家との散漫な対談が長く、あまり得るところのない表面的な取り上げ方になってしまいました。画家の妻まじいまでの細部の描き込みの、せめていくつかにしてもっと本物の専門家に語ってほしかったのですが。ところで5月に出了『ゴッホと〈聖なるもの〉』が話題となつています。同書では、たとえば《善きサマリア人》という作品と徹底的に向き合い、画家にとってイエスとは誰だったのかという本質的な問題を執拗に問い続けています。実証と思索をギリギリまで突き詰めた、若手による読み応えのある労作です。(小林)

# 福音と世界

2017年  
7

A5判・80頁・定価635円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8460円

特集・改革しつつけるアジアの教会

近代日本人のアジア認識と戦後の

教会の取り組み

山本俊正

内戦と虐殺の歴史を経て——カンボジアの

社会変化とキリスト教会

宇井志緒利

内戦下のスリランカにおいて十字架を担う

志村 真

現代タイのキリスト教に学ぶ

ことをめぐって

藤原佐和子

危機意識と行動

——韓国教会の状況と改革の試み

ナグネ

変貌する中国・香港・台湾の教会と相互関係

松谷暉介

【連載より】

◆はじめての台湾キリスト教史 4……高井ハラー由紀

◆みことば散歩 7

望月麻生

◆聖書とわたし 17

中村うさぎ

◆アメリカの神学と教会のいま 9

吉松 純

◆現代神学の冒険 10

声名定道

◆新約釈義 第一テモテ書 17

辻 学

◆レヴィナスの時間論 28

内田 樹

◆詩篇の思想と信仰 146

月本昭男